



# 普天間基地は ただちに無条件で撤去を！

普天間基地は、米海兵隊の航空基地であり、宜野湾市のだ真ん中に位置して、市民はその周辺をとりかこむように生活しています。米軍ヘリや空中給油機、戦闘機が日常的に上空を旋回して訓練をおこない、「世界で一番危険な基地」（2003年ラムズフェルド米国防長官）です。

「普天間基地の即時返還」は、沖縄全県民の願いです。今、鳩山民主党政権は、「県外」か、「国外」かと移設先をめぐり迷走しています。

民主党政権は、「無条件撤去」を求める立場に立って、本腰を入れた対米交渉をおこなうべきではないでしょうか？

●宜野湾市のだ真ん中にある普天間基地。周辺は、商店街、学校、住宅地が隣接しています。

## ■「日本を守る抑止力」って本当なの？

### ◆沖縄の基地は「海外遠征基地」

海兵隊は、海外への「殴り込み専門部隊」です。沖縄の海兵隊の役割は、日本防衛の任務などありません。アジア・太平洋全域に二ラミをきかせ、事がおきればただちに出撃することが役割です。

このような部隊に基地を提供している国は、世界で日本だけです。

- ・「沖縄海兵隊は日本の防衛任務にはあてられていない。作戦区域は西太平洋とインド洋である」（1982年ワインバーガー国防長官）
- ・「（海兵隊は）西太平洋における不測の事態に対応するうえで理想的な場所に配備されている」（1996年ブルーアー太平洋軍司令官）

### ◎関連年表

1945年	3月	沖縄戦
1950年	6月	朝鮮戦争勃発
1951年	9月	サンフランシスコ条約・旧日米安保条約調印
1965年	2月	ベトナム戦争で米軍が北爆を開始
1968年	11月	琉球政府行政主席選挙で屋良朝苗氏が当選
1970年	12月	コザ暴動
1972年	5月	沖縄返還協定発効、沖縄県発足
1991年	1月	米軍が主導の湾岸戦争開始
1995年	10月	米兵の少女暴行事件に抗議する県民総決起大会
1996年	12月	SACO（沖縄に関する日米特別行動委員会）合意
2001年	10月	米軍が主導の対アフガニスタン戦争開始
2003年	3月	米軍が主導の対イラク戦争開始
2004年	8月	普天間基地の米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落、炎上
2009年	2月	沖縄駐留米海兵隊グアム「移転」協定調印
2010年	1月	名護市長選挙で基地移設受け入れに反対する稲嶺進氏が当選

# ■ 沖縄県民を苦しめる米軍基地

## ◆ くりかえされる事故の恐怖

沖縄は、「基地の中に沖縄がある」といわれ、米軍基地が沖縄本島の面積の20%にも達し、嘉手納空軍基地のある嘉手納町では面積の83%を占めています。住宅や学校、病院などが密集した地域に大規模な基地が存在しているために、住民はいつも危険と隣り合わせです。



## ◆ 世界一ひどい米兵犯罪

1995年、米兵3人のが女子小学生を拉致、暴行する事件が発生し、県民の怒りが大爆発し、11万

人規模の抗議県民大会がおこなわれました。しかし、殺人や強盗、強姦など米兵の凶悪犯罪は絶えず、公になったものだけでも復帰後6000件もの事件がおきています。

日米地位協定は、「公務外」の米兵犯罪でも、身柄引き渡しや日本側の裁判権を制限しています。

## ◆ 絶えがたい騒音被害

航空基地周辺ではジェットエンジンの爆音とともに朝が始まり、夜中でも離発着する軍用機のために安眠が妨げられ、嘉手納基地の隣の小学校では大音響で5分に1回は授業が中断されるほどとなっています。

# ■ 銃剣で殴り、土地を奪う

## ◆ 戦中、終戦後は、住民を収容所へ追い込んで

沖縄は住民を巻き込んだ地上戦が戦われたただ一つの県であり、占領した米軍は県民を収容所に閉じこめ、その間に県民の土地を接収しました。ハーグ陸戦法規は戦争中といえども私有財産を没収してはならない、必要な収用の場合も対価の支払いを決めており、沖縄の米軍基地は国際法にも違反したものです。

## ◆ 復帰前までは、銃剣とブルドーザーで基地拡張

1951年の講和条約以降も沖縄は、アメリカに占領されたままです。米軍は権力をかざし、乱暴なやり方で基地を拡大しました。伊江島では農民の反対にも耳を貸さず、ブルドーザーで住居を踏みつぶして焼き払い、小禄村でも機関銃で武装した米兵が契約書を一方的につきつけて土地を収用しました。

## ◆ 復帰後も、日本政府が積極的に手を貸して

1972年に沖縄は日本に復帰しましたが、復帰してから返還された土地はごくわずかしかありません。これは日本政府がアメリカに「復帰後も基地の機能は維持する」と約束、特別の法律をつくり、期限が切れるとまた別の法律をつくるというやり方で、半永久的に土地を提供し続ける仕組みをとってきたからです。